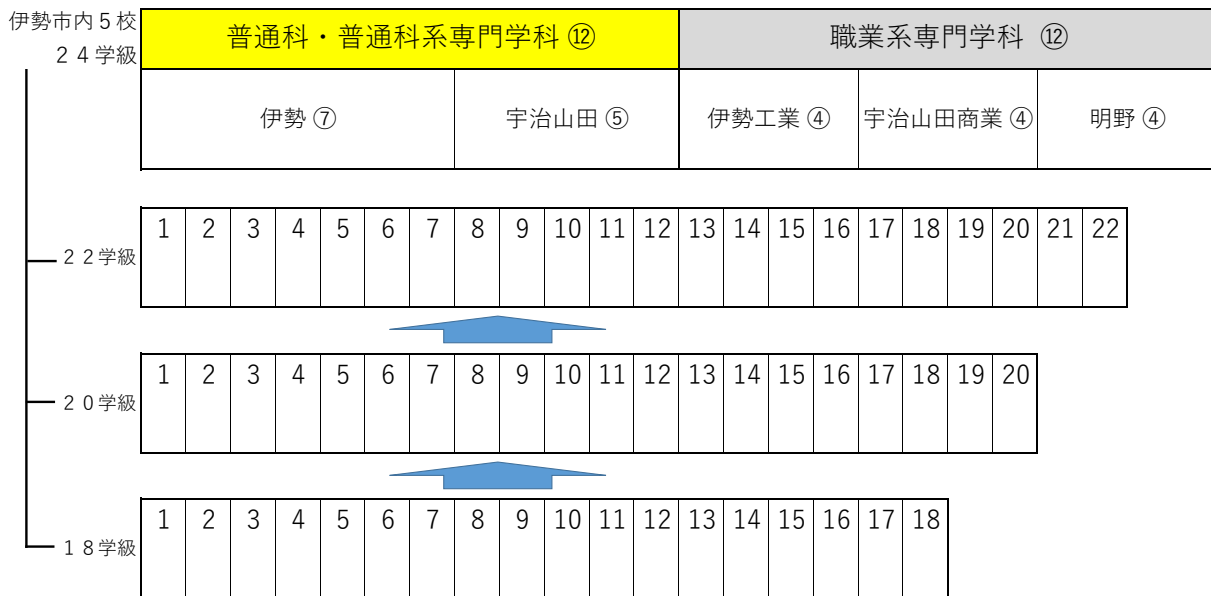


## (1) 伊勢市内の再編について



### 第2回協議会の主な意見

- 県内唯一の学科を有する水産高校と、当地域の総合学科の学びを残すことを前提に、伊勢市内の再編に関する議論を進めていきたい。
- 専門高校における学びを維持するには、教員数確保の観点から、どのくらいの学校規模が必要なのか。また、その必要とされる学校規模を下回るのであれば、統合も致し方ないのではないのか。
- 普通科高校2校の統合や専門高校3校の統合が可能かどうかなど、再編のあり方を検討するにあたっては、中学生や保護者の意見だけでなく、高校や中学校現場の意見をふまえたい。
- 伊勢市内の専門高校に県内の全ての学科が設置されているわけではないので、当地域の将来的な総学級数をふまえると、松阪地域との再編も視野に入れ、専門高校の学級数を減じる方向性で検討せざるを得ないのではないのか。
- 普通科は8学級規模の1校とし、そのうち2学級で探究的な学びやSTEAM教育を中心とした学びを展開する。また、専門学科については、現在ある学科のバリエーションを維持し、伊勢工業3学級、宇治山田商業3学級、明野4学級の3校10学級として、学びの選択肢を維持する。
- 普通科高校2校を統合して1校9学級とする。また、専門高校3校も統合し、現在の学科の枠を超えて学びを見直しながら、工業系3学級、商業系3学級、農業系3学級の1校9学級とし、伊勢市内で2校の配置としてはどうか。
- 令和21年度に当地域の1学年の総学級数が15学級になると想定した場合、普通科高校は進学対応6学級と就職対応2学級の8学級、専門高校は水産高校の存続を前提に6学級、総合学科を1学級とする。その中で、就職対応の普通科2学級をどこに配置するかを考えれば、学科のバランスや学校規模の条件を満たすのではないのか。

## (2) 小規模校のあり方に係るこれまでの協議について

### ① 令和5年度第2回協議会

(「1学年1～2学級規模の高校の今後のあり方」について)

- 伊勢志摩地域では、地域内の高校への通学に1時間以上かかるところもあるので、交通事情が異なる伊賀地域や紀南地域における統合事例と同じように考えるのは難しい。
- 統合により近隣の学校がなくなると、交通事情により遠隔地の高校に通えない生徒が出るのではないかと。
- 生徒の通学の負担、保護者の経済的な負担を考えると、校舎制を含めた存続も検討する必要がある。
- 学校がなくなった場合の所在市町への影響も考慮して方向性を考えたい。
- 令和6年度以降に1学級規模となる学校の役割や教育実践を注視しながら、今後のあり方についての議論をすべきである。
- 1学級規模の学校では、教科指導の充実や部活動の活性化が条件的により厳しくなるため、これからの生徒の学びに不安が残る。
- 中学生の進路状況をふまえると、伊勢市内の高校の学級数を減らしたとしても、1～2学級規模の高校への進学者が大きく増えるとは考えにくい。伊勢市内の学級減と1～2学級規模の高校の存続は、別の問題として考える必要がある。
- 小規模校のよさを生かすためには、さまざまな工夫や制度による働き方改革と予算化を行い、子どもたちと向き合える時間を作ることが大切である。

### ② 令和5年度第3回協議会

(1学年1～2学級の小規模校について)

- 小規模でもそのメリットを生かして成果をあげている高校があり、そうした学校の努力や工夫もふまえて議論を進める必要がある。
- 令和20年度までに地域全体で10学級程度の減となれば、2～3校は減ることが想定される。目先の学級減にとらわれがちだが、最終的にどのような高校の配置がよいのかを議論したほうがよい。
- 小規模でも地元に残して欲しいという思いはあるが、限られた教員数で教育環境を維持するのは厳しいことも理解できる。一概に学校を残すというのではなく、何らかの方法を講じて学びの機会を確保してほしい。

### ③ 令和6年度第1回協議会

(今後の協議の視点)

- 今後の当地域の学びと配置のあり方を協議するにあたっては、具体的に次のようなことについて検討する必要がある。
  - ・小規模校である鳥羽高校、志摩高校、南伊勢高校は、どこかで統合せざるを得ないと考えるが、そのプロセスをどうするのかについて

### ④ 令和6年度第2回協議会

(学校規模と学びについて)

- 3学級以下の高校については、少人数だからこそ実現できる教育的役割をふまえ、残すことも含めた議論をしていきたい。
- 小規模校の生徒から話を聞くと、小規模校ならではの生徒と教員の距離感や、丁寧な指導に魅力を感じている生徒も多いように感じた。小規模校も含めバランスのよい配置を考えていきたい。

#### 「令和5年度の協議」（今後の学びと配置のあり方について）の概要

- 現在の9校の配置のままでは当地域の高校生に必要な学びを提供していくことが難しい
- 各学科・コースの学びの選択肢はできる限り維持することが望ましい
- 進学ニーズに応える普通科高校は、8学級規模が望ましい。やむを得ず学校規模を縮小する場合、6学級を下回らないよう一定規模を維持
- 部活動の活性化の観点から4学級以上が望ましい
- 1学年1学級となる3校の役割や教育実践を注視しながら、統合も含めた今後のあり方について議論
- 水産高校は引き続き活性化に取り組む（現計画期間）

### (3) 伊勢志摩地域の再編について

令和7年度 29学級		普通科・普通科系専門学科 ⑫		職業系専門学科 ⑫				普通科 ②		職業系 専門学科 ②		総合 学科 ①	
伊勢 ⑦		宇治山田 ⑤		伊勢工業 ④		宇治山田商業 ④		明野 ④		志摩 ① 南伊 ① 勢 ①		水産 ② 鳥羽 ①	

令和10年度  
24～25学級程度

1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25
---	---	---	---	---	---	---	---	---	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----

令和15年度  
20～22学級程度

1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22
---	---	---	---	---	---	---	---	---	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----

令和21年度  
12～15学級程度

1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15
---	---	---	---	---	---	---	---	---	----	----	----	----	----	----

○15年先(1学年あたりの総学級数12～15学級程度)の伊勢志摩地域の「高校の学びと配置のあり方」で、大切にしたい点や望むこと

○15年先の途上となる伊勢志摩地域の「高校の学びと配置のあり方」で、大切にしたい点や望むこと